

三七三一番

思おもふ故よに 逢あふものならば しましくも 妹いもが目め
離かれて 我あれ居をらめやも

三七三二番

あかねさす 昼ひるは物もの思もひ ぬばたまの 夜よるはすが
らに 音ねのみし泣なかゆ

三七三三番

我わぎ妹子もこが 形かた見みの衣ころも なかりせば 何なに物ものもてか
命いのち継つがまし

三七三四番

遠とほき山やま 関せきも越こえ来きぬ 今いま更さらに 逢あふべきよしの
なきがさぶしさ